

茶陶・伊賀六人展 ― 年々去来の花 ―



今年四月、伊賀上野に待望の伊賀陶芸館が開館した。私はそのパンプに「芭蕉は四一歳の時に母の墓参のため伊賀に帰郷、江戸へ帰る途中、名古屋の連衆と『冬の日』の歌仙を成し芭風を確立した。自らの俳諧をもって『俗談平語を正す』」というのが芭蕉の文学精神であり、それを支えたのが座に連なる各地の俳人たちであった。私は、伊賀陶芸館『丸之内倶楽部』が地域の人々の座（交流の場）となり、芸術性の高い伊賀焼の躍進に繋がることを期待している」と書いた。茶陶・伊賀六人展の陶芸家は、伊賀陶芸館に展示されている伊賀を代表する現代作家六人である。副題の「**年々去来の花**」は世阿弥の能楽書「風姿花伝」第七「別紙口伝」より抜粋した言葉で、これからの六人の活躍を願って付けたものである。

新学の《伊賀鎗茶盃》は、割り貫き技法によって制作した土のパワーを感じる力強い茶盃。伊賀の特徴である緑色のビードロ釉と黒い焦げの間を二筋の玉垂れが流れて、自然な景色を成している。口部は山道状に波打ち、茶盃全体の造形とマッチして緊張感を高めている。

尾花友久の《伊賀白茶碗》は、京焼の白い釉薬をかけて焼いた宋磁風の平茶碗。口径20センチのゆったりとした夏茶碗である。尾花は、アメリカ人陶芸家ダレン・ダモンテに師事し、国内外のギャラリーで作品を発表している。そのためか作風は至って自由である。

鈴木大弓は仙台市生まれ。中央大学在学中より作陶をはじめ、李朝陶に憧れて韓国へ渡り陶技を修得、帰国後は信楽にて独立するが、伊賀焼に魅せられ伊賀に移住する。この《伊賀茶盃》は、黒い焦げの上に緑色のビードロ釉が走り、大きな抜けか特徴の杓形茶盃である。

谷本貴の《伊賀耳付花入》は、口と胴中央がまるく膨らみ、胴部が大胆にひしゃげている。双耳が口の部分に付けられており、高台から胴に掛けて黒い焦げが見られ、その脇に三筋の筋目（へら）が施されている。炎が直面する火表と反対側の火裏では、大きく景色が異なっている。

福島一紘の《伊賀茶盃》は、塊の粘土を割り貫き技法で制作した茶盃。穴窯焼成で火入れから70時間後に引き出して冷却すると、ビードロ釉が青白く冴えるという。口造りは飲み口を一箇所残して、他は厚めに作っているのは、そのビードロ効果を狙ったことだという。

福島真弥の《伊賀水指》は底を轆轤（ろくろ）成形して、模様を写した板状の土を貼り付けて成形したもの。古伊賀にはない大きな耳の付く、松の灰被りを載せた水指で、伊賀の風景を抽象表現している。大学時代に日本画を学んだことで、視覚的な表現を思考しながら制作している。

森 孝一（美術評論家・日本陶磁協会常任理事）

茶陶・伊賀六人展 一年々去来の花ー

会 期 令和8年8月25日（火）～31日（月）

会期中無休

開廊時間 11:00 ～ 19:00

※ 最終日の8月31日（月）は17:00まで

出品作家 新 学 8月25日（火）

[在廊予定] 尾花友久 8月26日（水）

鈴木大弓 8月26日（水）～27日（木）

谷本 貴 8月25日（火）～27日（木）

福島一紘 8月27日（木）～31日（月）

福島真弥 8月27日（木）～31日（月）

会 場

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11

安与ビル 地下2階

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

MAIL gallery@kakiden.com



柿傳ギャラリー HP



公式 Instagram



記念茶会「年々去来の花」のご案内

柿傳ギャラリーの上にある茶室にて、本展の記念茶会「年々去来の花」を開催致します。

茶会に参加された事がない初心の方も大歓迎ですので、伊賀ゆかりのお道具で葉月の一服の茶をお楽しみ頂ければ幸いです。皆様からのお申し込みをお待ち申し上げております。

日 時 8月27日(木) 11:00、13:00 席入の二席

※席入 15 分前まで受付・寄付(7 階)に集まりください。

席 主 出品作家一同

[当日は、鈴木大弓、谷本 貴、福島一紘、福島真弥が皆様をお迎え致します]

場 所 新宿 京懐石 柿傳

東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビル

茶 席 受付・寄付「安与ホール(7 階)」



薄茶席「残月亭(9 階)」



点心席「古今サロン(6 階)」

点 心 お食事の内容は小向付、旬菜を盛り込んだ縁高、煮物椀、ご飯と香の物です。

もちろん、美味しい日本酒もふんだんにご用意しております。

会 費 7,000 円(税込)

服 装 お楽な格好でご自由にどうぞお出掛け下さい。

所 要 1 時間 45 分程度

申 込 参加ご希望の方は、右の二次元コード又は
弊廊の電話(03-3352-5118)か
メール(gallery@kakiden.com)から
お申し込み下さいませ。

8/27 茶会
申込ページ



伊賀鑄茶盤
φ12.0×H9.0 cm

新 学

Atarashi Manabu

昭和 48 年 大阪生まれ
平成 7 年 関西大学 文学部 卒業
平成 11 年 父、新歓副に師事
平成 14 年 穴窯築窯、初個展
平成 15 年 以降各地にて個展、グループ展開催
平成 20 年 二基目となる穴窯築窯
平成 23 年 新窯築窯
平成 25 年 第 6 回 現代茶陶展 受賞 (岐阜県土岐市)
令和 3 年 新たに穴窯築窯



伊賀白茶碗
φ20.0×H7.0 cm

尾花友久

Obana Tomohisa

昭和58年 京都生まれ
平成17年 京都嵯峨芸術大学 短期大学部 陶芸専攻 卒業
三重県伊賀のダレン・ダモンテ氏に師事
平成19年 伊賀にて独立
平成27年 伊賀市音羽に移窯
令和3年 初個展「一から一へ」(wad 大阪)



伊賀茶盃
W13.6×D12.0×H9.6 cm

鈴木大弓

Suzuki Hiroyumi

昭和56年 宮城県仙台市生まれ
平成17年 韓国、聞慶および慶州にて修行
平成21年 信楽にて独立
平成28年 伊賀に工房を移す
全国各地の百貨店、ギャラリーにて個展、グループ展開催

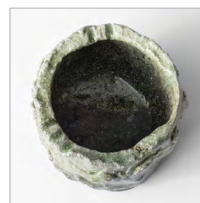


伊賀耳付花入
W18.0×D15.0×H27.5 cm

谷本 貴

Tanimoto Takashi

昭和53年 三重県伊賀市生まれ
平成9年 同志社大学 文学部文化学科 美術及び芸術学専攻 入学
平成14年 京都府立陶工高等技術専門校 入学
平成15年 森 正氏に師事
平成17年 伊賀市に作陶を始める
以後、各地で個展、グループ展 IAC会員



伊賀茶盤
φ13.8×H10.5 cm

福島一紘

Fukushima Kazuhiro

昭和56年 三重県伊賀市丸柱生まれ
平成16年 京都府立陶工高等技術専門校 卒業
平成17年 岐阜県恵那市上矢作にて鯉江良二氏に師事
平成18年 渡米・カリフォルニア・エルクバレーにて穴窯の研修
平成22年 自宅工房に穴窯を築窯
現在、伊賀市丸柱にて制作



伊賀水指
W18.5×D23.3×H18.0 cm

福島真弥

Fukushima Shinya

昭和 58 年 三重県伊賀市丸柱生まれ
平成 16 年 奈良芸術短期大学 日本画コース 卒業
平成 18 年 京都府立陶工高等技術専門学校 図案科 卒業
平成 19 年 丸柱に戻り制作
平成 24 年 自宅工房に薪窯築窯

価格表

作家名 作品名		本体価格／円 (税込価格／円)	作品サイズ (cm)
1 新 学 伊賀鎬茶盃 [桐箱付・後日]	P5	150,000 (165,000)	φ12.0×H9.0
2 尾花友久 伊賀白茶碗 [桐箱付・後日]	P6	80,000 (88,000)	φ20.0×H7.0
3 鈴木大弓 伊賀茶盃 [桐箱付・後日]	P7	120,000 (132,000)	W13.6×D12.0×H9.6
4 谷本 貴 伊賀耳付花入 [桐箱付・後日]	P8	250,000 (275,000)	W18.0×D15.0×H27.5
5 福島一紘 伊賀茶盃 [桐箱付・後日]	P9	150,000 (165,000)	φ13.8×H10.5
6 福島真弥 伊賀水指 [桐箱付・後日]	P10	130,000 (143,000)	W18.5×D23.3×H18.0

160-
0022

東京都新宿区新宿3-37-11

柿谷ギャラリー
KAKI-DEN GALLERY